



ぎふ清流国体 輝け はばたけ だれもが主役

47年ぶりに岐阜県で開催された第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」は、岐阜県選手団が圧倒的な強さで天皇杯・皇后杯を獲得し、10月9日に幕を閉じました。土岐市もウエイトリフティング競技とソフトテニス（少年女子）競技の舞台となり、「日本一」を目指す各県代表選手が熱戦を繰り広げました。

東日本大震災の被災地を元気づける大会、さらには日本再生のシンボルとされたこの大会には、全国から選手や関係者、観客など大勢の方が土岐市を訪れました。土岐市開催競技を陰で支えたボランティアや大会協力者の皆さんによる“おもてなし”は、訪れた方々の心に、国体の思い出とともに土岐市の名を深く刻んだことでしょう。

「輝け はばたけ だれもが主役」を合言葉に開催された今国体の土岐市開催競技を振り返ります。

問 国体推進室（内線217）





カと技のウエイトリフティング競技
土岐市出身の加藤選手・原田選手が挑む
10月6日・8日の3日間、セラトピア土岐
で開催されたウエイトリフティング競技は、
ロンドンオリンピックに出場した太田和臣選
手（福岡県・成年男子＋105kg級）が出場
するなど、まさに国内の頂点を競う大会とな
りました。

成年・少年合わせて304人の選手が出場
した中、ひととき大きな声援を受けた選手が
いました。成年男子62kg級の加藤雄介選手と
同69kg級の原田恭歩選手です。共に妻木町出
身の2人は、地元の声援を受けながら試技に
挑み、加藤選手はスナッチとクリーン&ジャ
ーク（C&J）で6位入賞、原田選手はC&
Jで8位入賞を果たしました。加藤選手は
「今大会までの思いを6本の試技に込めまし
た。たくさん応援の中で楽しく競技できま
した」と、充実した表情で大会を振り返りま
した。

岐阜県選手は、少年男子77kg級のスナッチ
で優勝した栗田選手をはじめ、出場した6選
手全員が入賞する好成績を取め、競技別総合
成績第6位と40年ぶりの入賞を果たしました。
「輝けはばただれが主役」をスローガ
ンに開催されたぎふ清流国体。故郷を代表し
て競技に挑む選手、選手に力を与えた観客の
声援、そして大会を支えたボランティアの皆
さん。それぞれの力が強い絆で結ばれて生ま
れた感動は、国体に関わった皆さんにとって
掛け替えのない財産になったことでしょう。



ひたむきなプレーを声援が後押し
ソフトテニス
9月30日、土岐市開催競技のトップを飾っ
たのは、ソフトテニス（少年女子）競技。大
会の舞台となった総合公園テニスコートに
は、16チーム96人の選手が集まりました。岐
阜県チームは、初戦の福島県との対戦を2-
1の接戦で見事勝利。キャプテンの吉田あゆ
みさん（鶯谷高校・岐阜市）は「想像以上の
応援が力になった。楽しく自分らしくプレー
できた」と、声援の後押しを受けてひたむき
にボールを追い掛けた。

国体を支えた力
国体は国内の一流選手が一堂に会する日本
最大級のスポーツイベントです。競技会場に
は選手だけでなく、監督やコーチなどの競技
関係者、観客が大勢訪れます。他県からの来
訪者をおもてなしの気持ちで迎えたのは「ト
キメキミナモサポーターズ」をはじめとする
ボランティアや大会協力者の皆さん。会場周辺
の清掃活動に参加された方、来場者を笑顔で出
迎えた受付案内係、やすらぎの時間を提供し
た休憩所係。今国体の成功は、皆さん一人一
人のおもてなしの気持ちが支えていたのだと
す。



▲総合表彰式後、選手・スタッフが全員集合。「チームぎふ」で記念撮影



▲小学生も迫力の競技を観戦。大きな声援で選手にパワーを送る



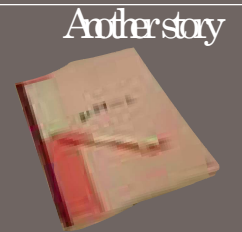
▲競技を御覧になる三笠宮寛仁親王妃瑤子女王殿下



▲曾木町おかあさんの店では温かいぜんざいと豚汁でおもてなし



▲放課後教室の子どもたちが作った看板と千羽鶴が選手をお出迎え



競技の舞台裏を取材した